

令和 6 年度 第 1 回東広島市環境審議会 議事要録

■日時：令和 6 年 7 月 24 日（水） 14:00～15:30

■場所：東広島市本庁舎 4 階 404 会議室

■出席者：《配席表及び委員名簿参照》

○委員：西嶋会長、岡本委員、市川委員、渡邊委員、小倉委員、橋野委員、弓場委員、水野委員、川口委員、白男川委員、井上委員、瀧鍵委員、村主委員、小河原委員、張委員、槇本委員

○事務局：生活環境部 中村部長

環境先進都市推進課 水戸課長、西本参事、向谷課長補佐兼環境管理係長、津山主査

○欠席：渡辺委員、北田委員、美野委員、石川委員

■ 配布資料〔○印は事前配布資料〕

○次第

○環境審議会委員名簿

○取組みの体系（A 3 版）

○資料 1：東広島市環境基本計画における市の取組み及び進捗状況について

○別表：進捗管理表

○第 2 次東広島市環境基本計画（概要版）

○東広島市の環境（環境白書）令和 5 年版

○東広島市における有機フッ素化合物の調査及び対応状況について
配席表

■議事概要

1 開会

- ・事務局による開会
- ・委員の自己紹介
- ・東広島市環境審議会の成立要件

2 議事

（事務局）

議事 1 の「東広島市環境審議会会長及び副会長の選任について」ですが、立候補者を募りたいがいらないか。

（委員）

事務局案があればお願いしたい。

（事務局）

委員から事務局案について提案があったが、皆様よろしいか。(異議なし)
では、事務局案として、会長は引き続き西嶋委員にお願いし、副会長については新たに小倉委員に就任いただきたいと考えているがよろしいか。(異議なし、拍手)

(事務局)

それでは、お二方は会長席、副会長席へ移動をお願いします。一言ずつ挨拶をお願いします。

(会長)

広島大学の西嶋です。皆様活発なご意見ををお願いします。

(副会長)

小倉です。会長をサポートし、皆様の活発なご意見もサポート出来るよう頑張りたい。

(事務局)

では報告事項に移ります。ここからは会長に進行をお願いします。

(会長)

まず、事務局から会議資料の確認をお願いしたい。

(事務局)

(会議資料の確認)

報告事項 1：東広島市環境基本計画における市の取組み及び進捗状況について

(会長)

それでは、報告事項 1 の「東広島市環境基本計画における市の取組み及び進捗状況について」事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

(会議資料 1 を使用して説明)

(会長)

ただ今の事務局の説明について、質問はあるか。新しい委員の方は分かりにくい部分があれば質問していただけたらと思う。

(委員)

進捗管理表の 1-1 (1) 取組みの方向性に記載の「海の保全」について、具体的な取組みが無かったので教えてほしい。

(事務局)

瀬戸内海の課題として、海産物の収量が減っていることが挙げられ、要因の一つとして栄養塩類の不足という意見がある。市としては排水を適切に処理できていないと赤潮の原因となるため、赤潮にならない程度でどう栄養塩類を増やせるか、という研究に近い検討を広島県と一緒にやっており計画書には載せられなかったものである。

(委員)

1-4 (2) 「憩いの森公園上空における夜空の明るさ」が挙げられているが、市街地と自然

公園では光の具合が変わってくると思うが、自然公園 1 箇所ですら十分なのか伺いたい。

(事務局)

西条地区は市街化が進んでいる中で、等級では現状比較的良好な状態を保っている。市域全体の 9 地区で測定できればベストだが、同時に 9 箇所を測定することは現実的には困難である。街中で測定するわけにもいかず、代表点として市街地に隣接するこの地点を設定している。

(委員)

2-1 (3) 「(再掲) 地力増進支援事業によるたい肥投入面積」について、取組みの柱「脱炭素社会の形成」の中に記載があるが、たい肥肥料の生産工程からも温室効果ガスが出ると知り、化学肥料とのバランスも重要と考えるが指標とした理由を伺いたい。

(事務局)

たい肥は土壌改良に主に利用されるが、たい肥を使用しなくなるとゴミになってしまい廃棄しなければならなくなる。一方で化学肥料は作る際にもエネルギーが必要である。バイオマスを循環利用することで無駄なエネルギーを使わず適切に炭素循環が図れるということで指標に設定している。

(委員)

2-1 (3) の取組みの方向性の中の「カーボンサイクルの構築」で、バイオマスプラスチック等への代替促進と記載があるがこれについての取組みが確認できないが、どう考えているか。

(事務局)

計画策定時は取組む必要性を感じて取組みの方向性に記載しているが、この基本計画は方向性を示す計画であり、実行計画のように具体的な取組みを記載していないものもあるが、様々な検討を進める中で今後 10 年間の計画期間の中で必要に応じて中間見直しもあり得る。

(委員)

資料 1 の 13 ページの 2-2 (1) 「環境学習に関するウェブコンテンツ数」について、市内には、多くの教育機関があり広島大学総合博物館では最近ウェブコンテンツを充実させており、市で独自に取り組むばかりではなく、リンクを貼るなど企業が作成したものも含めて活用されたら良いかと思う。作成数だけではなく、どれだけ数紹介できたかという観点も大切かと思う。

また、「河川・海域の類型指定水域における BOD・COD の環境基準達成率」について、下水処理場下流等の水質は、窒素分を多く含む為、酸素消費がそこにも使われており見かけ上の BOD 値が高くなるという事象がある。実績に記載の数字は河川の現状を捉えた結果となっているのか。

(事務局)

動画コンテンツについてはご指摘のとおりである。公共用水域の測定風景など、市でしか作成できないテーマを中心に作成を検討していくこととし、今後他団体のホームページ

からリンクが貼れないか併せて検討する。

二つ目について、黒瀬川の特徴として他の水系と比較して水量が少なく、下水処理放流後の希釈がされにくい点がある。炭素由来だけではなく窒素由来の BOD も含めて達成できるようにすることが課題と考えている。

(委員)

資料 1 の 8 ページ、下の表について 2-3 (2) が無いのは、漏れているのか。また、活動指標が無い場合、意見によって途中で指標を追加するということも可能なのか。

(事務局)

(資料 1 の 8 ページの 3 (2) 自体が誤記載で、記載した取組みの展開自体が計画に記載がないもの。※会議中に訂正)

指標を含めた中間見直しは行う予定である。指標として相応しいかは計画策定時に議論しているが、指標は客観的であるか、また通常業務の中で得られる数値であるかを重視している。アンケート項目などは、主観によって変化するものであり、また計画の進捗管理のためにデータを集計しなければならない等は、評価の指標として使いづらいことから指標を設定していないところがある。今後、これなら入れられるのではないかと項目があれば担当課と協議を重ねて、中間見直しの際に追加するということもあり得る。

(会長)

具体的な指標はないけれども活動自体はやっていくというものもある。それは取組み内容で評価をしていく。

(委員)

つまり数値がなくても指標はあり得るということか。

(事務局)

指標で表すのが難しい項目もある。例えば大学との連携など、件数で表すのが難しい。

(会長)

もし良い指標があれば、またこの場で提案いただきたい。

(委員)

進捗管理表の 2-2 (1) 「市民一人 1 日あたりのごみ排出量」について、スーパー等で市民が頑張って回収に協力している食品トレー等の量について、目に見える形で指標としてここに入ると良いかなと思う。ここに入るのが適切かはわからないが。

(事務局)

「資源化率」の指標に関係するご意見かと思うが、各スーパーの店舗でのトレーやペットボトルの回収は、事業者の取組みとして位置づけられており市で量を把握できておらず、指標として計算に加えるというのは難しい。もし出来たら皆さんの頑張りが分かり易くなって良いかと思うが対応が難しい。

(委員)

2-2 (1) 「市民一人 1 日あたりのごみ排出量」について、広島大学は短期留学生が多く、例えばお皿とかを次の留学生に使用してもらったりすれば、リサイクルにも繋がりごみの

量も減るのではないか。

(事務局)

市で粗大ごみ等の収集はしているが、一度意思を持って捨てられたものをリユースに回すことは難しい。ならばリサイクル目的での収集をすればよいのではないかという点については、市では現在対応ができていない。

また学生に聞いた話だが、広島大学の学生宿舎内の話であるが、先輩から後輩に使えるものは渡す仕組みがあると聞いたことがある。委員のご意見は、市内のリサイクル率を上げていくことにも繋がると思うので、廃棄物部門に対し情報提供したい。

(委員)

スーパーでの回収量の話があったが、トレーの量については昨年度 20 トン回収している。古紙の回収は 260 トン、ペットボトル 46 トン、アルミ・スチール缶が 26 トン回収している。弊社は広島市にも 6 店舗あり、広島市のごみ減量リサイクル委員会にも所属しており、毎年委員会から報告を求められ報告をしており広島市が集計しているので、アンケート等いただければ回答可能である。

(会長)

是非、全量の把握に努めていただきたい。スーパーで回収された分だけ一人当たりのごみの排出量は減っているので、その辺が明らかになればと思う。把握について検討していただきたい。

(委員)

先ほど事業者の取組みなので市では把握が難しいと回答があったが、この計画は市・市民・事業者で取組んでいくものではないのか。でなければ市民・事業者の環境活動の事例を収集する意味もないわけで、事業者の取組みは市の取組みではないというのは根本的に違うのではないか。

(事務局)

誤解を招く説明となってしまう申し訳ない。これまで市では、スーパーにおけるトレー等の回収量についてアンケートや照会等で把握する取組みがなく、各事業者における回収量や総量等の把握が出来ていなかった。まとまったデータがあるようであれば、活用し各事業者が収集した量が見えるような方法がとれるようであれば今後検討していきたい。

市内の環境活動ということで、全体を迫えるものがあれば検討していきたい。

(委員)

広島県の環境白書に、全スーパーの数値ではないが大手スーパーのデータが既に何年分か掲載されている。

(事務局)

集計が事業者ごとなのか市町ごとなのか、そこが絞れるのかわからないが確認してみる。

(会長)

データをとるのは当然大事なことであるが、大前提として市内の構成員全員が取り組む

ものであるということ、事業者や市民の協力がありながら目標の達成に向けて取組むものであると思うので、その点よろしく願いしたい。

(会長)

そろそろ時間も迫っています。その他質問はあるか。その他あれば事務局に直接聞いていただけたらと思う。

報告事項 2：東広島市における有機フッ素化合物の調査及び対応状況について

(会長)

それでは、報告事項 2 の「東広島市における有機フッ素化合物の調査及び対応状況について」事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

(会議資料を使用して説明)

(会長)

関心が高い項目かと思うが、ただ今の事務局の説明について、質問はあるか。

(委員)

現状を今説明していただいたが、検討委員会を設置した後どうだったかの説明は今からあるのか。

(事務局)

さきほどの説明のとおりである。現在は河川水のモニタリングを開始しており、結果はホームページで公表おり、数値的に大きな変化は見られない。

(委員)

地域からは地下水について不安や不満の声も聞く。市も大変だと思うが、この問題が解決できればと思う。

(会長)

他に質問等なければ、このあたりで本日予定の内容は終了ですが、「その他」として何かありますか。

(委員)

たい肥の導入について、本市は豊栄町をはじめ畜産業をされている方も多いが、畜産業をやられている方は全域でどの程度たい肥化が出来たのか教えてほしい。

(事務局)

関係課に確認し、改めて回答させていただく。

(会長)

もう少し時間がある。せっかくの機会なので他の事でも良いので質問があれば。

(委員)

資料 1 の 9 ページ、2-2 (1) ごみの排出量を減らす取組みについて、大学の食堂で毎日数 10 キロの食品ロスが出ているらしいが、広島大学の食堂と連携はされているか教えてほしい。

(事務局)

市では事業者が排出する生ごみ（食品残渣）のたい肥化に対する支援を令和4年度から始めている。昨年度広島大学の方にも訪問して声掛けを行っている。

(委員)

進捗管理表 2-1 (1) の取組みの方向性に「地産地消の促進」とあるが、具体的な取組みについては記載が無い。要望ではあるが、地産地消に配慮した食事が出来る様に動いていただけたらと思う。

(事務局)

地産地消について、産業部がどういう取組みを行っているか、また学校給食センターでどの程度市内の野菜等を使用しているかなど、今持ち合わせているデータはないが、取組みの方針自体はある。環境という面からアプローチする具体的な事業があるというわけではない。関係部署に確認して回答させていただく。

(会長)

これは10年の計画で今はまだ3年目に入ったところ。色々これから見直し等を含めあると思う。会議は年に2回くらいしかないが事務局の方に意見を出していただければと思う。それでは進行を事務局にお返りする。

3 閉会

- ・事務局による閉会